

27PE-am008

薬剤師会との連携による早期体験学習の取組みと評価

○森田 桂子¹, 大光 正男¹, 村上 克幸¹, 高木 淳², 小野 信昭²(¹第一薬大, ²福岡市薬剤師会)

【目的】薬学生が、医療を担う薬剤師が活躍する現場を早期に体験することは、薬学を学ぶ動機付けや学習意欲の向上に繋がる。本学では、病院・保険薬局、製薬企業、福祉施設(不自由体験)等において、1年次に早期体験学習を実施している。今回、薬剤師会からの全面的な協力を得て実施している保険薬局での早期体験学習の取組みと評価について報告する。

【方法】保険薬局での早期体験学習では、福岡県薬剤師会および福岡市薬剤師会(市薬)に依頼状を送付後、市薬と実施時期、受け入れ薬局、受け入れ学生数、見学内容、事前学習等について事前打ち合わせを行った。18年度、19年度入学の本学学生を対象にアンケート用紙、体験学習レポートを配布し、見学終了後回収し、評価した。また、見学終了後、本学学生のクラス単位(10名)でのスモールグループディスカッション(SGD)を行った。なお、保険薬局管理薬剤師にも見学した学生に対するアンケート調査を依頼し、評価の参考とした。

【結果及び考察】保険薬局への早期体験学習の時期は10月から翌年1月までの火曜日の午後10回とした。18年度は、学生183名に対して受け入れ保険薬局64店舗、19年度は、学生237名に対して受け入れ保険薬局100店舗の協力が得られた。各保険薬局には学生2名を市薬会営薬局2店舗には2~5名を配置した。学習内容は保険薬局における薬剤師業務全般とした。事前学習として、大学教員による「早期体験学習にあたっての心得」、市薬会営薬局の管理薬剤師による「医薬分業と薬局、薬剤師の活動」の講義を実施した。学生へのアンケート結果から、いくつかの検討課題はあったものの、保険薬局での早期体験学習は、薬学を学ぶ動機付けや学習意欲の向上に繋がったと考えられた。今後とも、市薬と十分な事前調整を行い、早期体験学習の充実に向けて取り組んでいきたい。